筑波山

2016年3月6日

リーダー:山組/市川 克也
悠遊組/豊島 泰

筑波山 山行報告　山組リーダー:市川 克也

『筑波山行の日は天気はどうなるのか?』リーダーとして、当日までこの不安がつきまとい、落ち着かない日々が続きました。数日前からの天気予報でも雨の可能性は高いとのこと。今回はバスも予約しているし、中止にはできない。天気がどちらになっても対応できるようにプランを組む必要(バスハイクも視野に入れる)がありました。インフォメーションでもその旨を載せ、皆にもどちらの場合にも対応できるよう準備をしてもらいました。結局、当日の朝、筑波山に向かう途中の天気を見て、登る決断をしました。しかし、いざ登ってみると天気はだんだんと良くなり、女体山の山頂では皆で眼下の絶景を見ることができました。

さて、筑波山はとても有名で人気の高い山ですが、何人かのメンバーに聞いてみると、初めて来たとか、小学校の遠足以来、何十年ぶりに来たとか言う人が多いのに驚きました。今回登ったコース(おたつ石コース)は、大仏岩や北斗岩など、大きな奇岩が多い面白いコースでした。登る過程では、できるだけペースを落として皆の負担を最小限に抑えようと考えて歩いていました。それでも、全員がコースタイムに遅れることなく、予定よりも早く下山できました。マラソンと同じように、山はペース配分がいかに大切かを改めて感じました。『できるだけゆっくり歩いて、景色や自然、会話などを楽しむ。しかし、歩き終わってみれば決して遅くはない』。今後もこのような方針で歩いていきたいと考えています。

山を下りた後は悠遊組と合流して、赤や白の梅の花が満開の梅林の中を歩いて写真を撮ったりしました。満開のいいタイミングで来られたこと、無料見ることができたことに感謝です。

昼食＆温泉は日帰り入浴施設でゆっくりと時間を取るができましたが、温泉に入った人が半分しかいなかったことは、正直、想定外であり動揺しました。入浴するにはまだ早かったからなのか?入浴代が少し高かったからなのか?終わって振り返ってみれば、梅林で皆で弁当を広げて食べるのがベストだったなと感じてはいますが、当日は天気が読めなかったので、雨が降っても昼食が取れるように外食にしたのです。もちろん、今後も『できるだけ景色のよい所で皆で弁当を食べる』のを基本にするべきであると思っています。

最後は筑波宇宙センター (JAXA)を自分のリクエストで皆で見学しました。果たして皆の評判はよかったのだろうか?伊藤会長が昔、『日本の百名山を二百倍楽しむ本』というのを書こうとしたそうです。それはその山の自然の魅力だけでなく、山の周辺の歴史や文化、グルメや人との交流なども含めた魅力を紹介する趣旨であると聞きました。それは面白いなと感じていましたので、遊友でもチャンスがあればぜひそのような場所にも行けたらということで、筑波宇宙センターに行ってみることにしたのです。つくば市は最先端の研究都市でもあるのです。人工衛星や宇宙ステーションの日本実験棟、小惑星探査機はやぶさ、かぐやが撮影した月の表面のハイビジョン映像などは、皆のファンタジー心をきっと刺激したはずだと信じていますが…。今回の山行の集合写真は、国産H2ロケットの前で撮りましたが、ハイキングクラブらしくなかったかもしれません。

今回の山行では多くの場所を巡り、いくつかの反省点もありました。ゲスト参加した相川さんや再入会した樋口さんは、今回の山行をどう感じたのでしょうか?また皆と行きたいと感じてもらえればと願っております。今回、久しぶりに参加したメンバーもこれからも一回でも多く参加して、皆で楽しい思い出を積み重ねていきましょう!アドバイスを頂いた会長や運転手の及川さん、保険担当の佐藤さん、会報担当の小倉さん、そして、メンバー一人一人の皆様のご協力に感謝致します。ありがとうございました。

3月筑波山 山行記 伊藤 松雄

定刻に出発したバスの車内で、定例の近況報告が始まった。私は皆さんにお会いするのは12月以来。なので、「今年もよろしくお願いします」。また、膝痛だったために、「ご心配をおかけしました」と。

バスは、埼玉・千葉、そして茨城県に。しばらくして、「あっ、あの城は何だ!」。驚愕の声があがった。見ると5層7階の天守閣。目をこらしえると…『豊田城』の看板。豊田城?、そんなお城は聞いたことがない。それもそのはず、この建物は常総市地域交流センター。本物の豊田城は、この地からほど遠い所に位置し、カヤ葺きの建物だったという。つまりこのお城、豊田城と全く関係のない、エセ天守閣であった。

まったくセンスがないなあ～、と思いきや、「凄～い!」の声。県道の両側には、大きな門・塀と屋敷林が組み合わされた、寺院のような建物が整然と軒を連ねている。全国にある「伝統的建造物群」の町並みを、るる知ってはいるが、つくば市・洞下（ほらげ）地区にあるこの景観は、それに劣らぬ豪華さ、歴史があって魅了した。

すると今度は、『西の富士、東の筑波山』と万葉に呼ばれた、筑波山の大きなすそ野が、車窓いっぱいに広がってきた。頂上はふたつの峰に分かれ、昔から男神（男体山）・女神（女体山）として崇められてきた。

縄文時代、筑波山周辺は海だった。その筑波山は波を防ぐ役割を果たし、また波が着く波（ば）であった。それ故に、筑波山と呼ばれてきた。

筑波山に登るコースは数々。今日は、奇岩怪石を巡る「おたつ石・白雲橋コース」を辿るという。初夏には綺麗に咲く「つつじヶ丘」を定刻にスタートして、休憩場所の弁慶茶屋跡に着く。

その頃には、覆っていた霧もはれて、木々の合間から、青空と筑波山最高峰の女体山が覗かれた。

休憩を終えて歩き始めると、「えーっ!」と、前行くメンバーからの声が…。あの豪傑な弁慶も、恐ろしさのあまり、7回も後じさりをしたと伝えられる『弁慶七戻り』の奇岩が、行く手をさえぎった。

この弁慶七戻りから下は俗界、上を聖地とする「結界」になっている。

そもそも太古の人々は、不安や喜び、願いや望み、感謝の意を示す対象が、岩や木であり、山や森を聖（神）なる存在として敬った。そのためか、中腹にある筑波山神社には、立派な拝殿はあるが、神を祀る本殿はなく、筑波山そのものが御神体になっている。

「よく落ちないね」、今にも落ちそうな奇岩群をくぐり抜けていくと、眼下に関東平野が広がってきた。筑波山は単独峰といわれるが、海側から見ると、加波山など多くの山々が連ねて、八溝（やみぞ）山地の南端（一部）に聳えている、が、女体山からの眺望はすこぶる良い。

女体山・男体山の鞍部にある、ケーブル乗場に着くと、市川リーダーが、「紫峰杉を見に行ってくる」という。樹齢800年の巨樹は、約5分のところに立っている。筑波山は古くから紫峰（しほう）と呼ばれてきた。筑波山を遠くから見ると、紫色の山に見える所以だ。そのことを松浦さんたちに話すと、「本当に筑波山が紫の山に見えます」と。

その由来は、勤めていた会社の取引先・醤油会社の商品に、『紫峰』という美味しい醤油があった。その昔、江戸城の奥女中たちが「むらさきはまだか」と、土浦から醤油が届くのを待ちかねて、話をしていたとか。『むらさき』とは醤油。紫峰、すなわち筑波山からの呼称であった。

また、筑波山のお土産に七味唐辛子がある。それは、山麓で収穫した「福来（ふくれ）みかん」の皮を、乾燥・粉末にして、辛子にまぜた黄色と赤い唐辛子。食べた瞬間に、ふわっと、みかんの香りが広がって、実に美味しい。しかも、福が来るというから、この上ない七味唐辛子。

下った麓の梅園で、品川さんが『ガマの油売り口上』に釘づけとなっていた。口上は、刀で腕を切って赤い血をたら～り。その傷口にガマの油をぬる。すると傷が治る。だが…「刀の先には刃がついて、紙や物をスパスパと切って見せる。手元の方の刃はつぶして、女性の口紅を仕込んである。そして手元の刃で腕を切る…」果たしてその真相は如何に。

さて、これから温泉に浸かって宇宙センターに行くのだが、私には、宇宙（未来）より、歴史（過去）とビール（現在）の方が合うようだ。

だが今日は、久しぶりに樋口さん（再入会）、相川さん（入会）、今日の筑波山が、百回目登山になる西川さん。今年初めての外出だという浜崎さんたちにお会いするなど、楽しい山行だった。それは、企画進　行をしてくれた市川さん、悠遊を率いてくれた豊島さん、会計の梅沢、岡本さん。そして皆さんのおかげです。ありがとうございました。

2016年4月山行の案内

仙人ヶ岳

4月17日（日）の山行は足利市の最高峰仙人ヶ岳です。
仙人ヶ岳は足利市の北西部、群馬・栃木県境の山。標高は 662.9mの低山ですが、沢沿い、岩場、尾根歩きを楽しめる山です。時期的にアカヤシオ、ミツバツツジ、イチリンソウ、ヤマブキソウなどが期待出来、可憐な山瑠璃草も探しましょう。

【日時】2月14日（日）
【集合】せんげん台：5時45分／春日部：6時00分
（今回はマイクロバスで行動します）
【行程】5時間コース　下山後、温泉入浴予定
【持ち物】雨具、昼食、
【リーダー】松島 毅

仙人ヶ岳のアカヤシオ→